

はじめに

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあり、絶対に許されない行為である。

本校においても「いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こりうる」という認識の下、これまで推進してきた「未然防止」「早期発見」「早期対応」の取組の視点に「重大事態への対応」を加え、取組の更なる充実を図る必要がある。また、地域との協働やいじめ対策委員会を中核とする組織的対応、外部専門家や関係機関との連携を一層強化することにより、本校におけるいじめ防止等の対策が体系的・計画的かつ具体的に行われるよう、「いじめ防止対策推進法」（以下「法」という。）の趣旨を踏まえ、国の「いじめの防止等のための基本的な方針」及び「山口県いじめ防止基本方針」「長門市いじめの防止等のための基本的な方針」を参酌して「長門市立俵山小学校いじめ防止基本方針」を定める。

I いじめの防止等のための対策の基本的な方向に関する事項

1 いじめとは

いじめの定義

いじめとは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。（法第2条）

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、特定の教職員のみによることなく、いじめ対策委員会が中心となり、表面的・形式的にならないよう、いじめられた児童の立場に立つて行う。

法の定義に照らし、「いじめ」に当たるかの判断は、①当該児童と一定の人的関係があったか、②当該児童に心理的・物理的影響を与えるものであったか、③当該児童が心身の苦痛を感じていたかという3つの要件に該当するかで判断する。

具体的ないじめの認知と対応の留意点には以下のようなものがあげられる。

◇個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめられた児童の立場に立つとともに、「心身の苦痛を感じているもの」との要件が限定して解釈されることがないように努める。

◇いじめの確認と把握においては、次の点に留意する。

- ・当該児童の表情や様子をきめ細かく観察する。
- ・いじめられた児童の主観を確認するだけでなく、行為の起こったときのいじめられた児童本人や周辺の状況等を客観的に確認する。
- ・いじめの認知は、特定の教職員によることなく、必要に応じて学校におけるいじめの防止等の対策のための組織を活用して行う。
- ・けんかやふざけ合いであっても、見えないところで被害が発生している場合があるため、いじめられた児童の感じる被害性に着目した見極めを行う。

◇好意による行為が意図せずに相手側の児童に心身の苦痛を感じさせてしまったような場合については、学校は行為をした児童に十分加味した上で対応する。

◇インターネット上で悪口を書かれた児童がそのことを知らずにいるような場合など、行為の対象となる児童本人が心身の苦痛を感じるに至っていないケースについても、加害行為を行った児童に対する指導等については法の趣旨を踏まえた適切な対応をする。

◇いじめの中でも、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談することが重要なものや、児童の生命、身体または財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報する必要があるものについては、教育的な配慮や被害者の意向への配慮の上で、早期に教育委員会・警察に相談・通報の上、連携した対応をとる。

2 いじめの解消とは

「いじめが解消している」とは次の2つの要件が満たされている必要がある。

- ① いじめにかかわる行為のやんでいる状態が相当の期間継続していること。
相当の期間とは、少なくとも3ヶ月を目安とする。
- ② 被害児童が心身の苦痛を感じていないこと。
いじめにかかわる行為が止んでいるかどうかを判断する時点で、被害児童がいじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められること。被害児童本人及びその保護者に対し、心身の苦痛を感じていないかどうかについて面談等により確認すること。

「いじめが解消している」状態に至った場合でも、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、日常的に注意深く観察する必要がある。

3 いじめの防止等に係る基本的考え方

(1) いじめの防止

児童等は、いじめを行ってはならない。(法第4条)

いじめを根絶するためには、「いじめは絶対に許されない」「いじめは卑怯な行為である」との認識の下、未然防止の観点から、すべての児童生徒を対象とした人権教育や道徳教育、情報モラル教育等、健全育成に係る取組を総合的かつ効果的に推進し、家庭や地域、関係機関等との連携・協働の下、豊かな人間性、確かな学力等の生きる力を育む教育活動を行う。

(2) いじめの早期発見・早期対応

いじめは構造的に見えにくい一面があることから、児童の些細な変容について、関わるすべての教職員が状況等を共有し、「背景にいじめがあるのではないか」との危機意識をもち、いじめを軽視したり、隠したりすることなく、早期のいじめの認知に努める。

また、いじめを発見し、または相談を受けた場合には、他の業務に優先して、速やかに校内いじめ対策委員会に報告し、組織的な対応につなげる。迅速かつ適切、丁寧な指導・支援を行い、児童にとって、一刻も早く安心・安全な学校生活となるよう、必要に応じ、関係機関や専門家等と連携しながら、いじめが確実に解決されるまで、組織による粘り強い対応を行う。

このため、いじめへの的確な対応に資する教職員の実践的知識を深め、平素から協働実践が行えるよう、教員評価による評価・検証・改善を行い、教職員研修を充実し組織的な対応のための体制整備に努める。

いじめの発見・通報を受けた場合には、担任や担当教職員が一人で事案を抱え込むことなく、学校として情報の共有を基に、いじめ対策委員会を中核として、全校体制でいじめの解決に向けて取り組む。

(3) 家庭や地域との連携

児童を見守り、健やかな成長を促すとともに、より多くの大人が子どもとしっかりと関わり、悩みや相談を受け止めるなどの体制を構築するため、法務局の「子どもの人権110番」や「やまぐち総合教育支援センターの『24時間子どもSOSダイヤル』等の相談窓口について児童・保護者へ周知するとともに、俵山小学校育英会や学校運営協議会委員等と積極的に連携・協働を図る。

(4) 関係機関等との連携

いじめの問題の対応においては、関係の児童・保護者間での解決を図るだけでなく、事案によっては、関係機関等と速やかに適切な連携を図る。

平素から、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)、警察、児童相談所、地方法務局、市教委等と定期的に連絡・協議する機会を設けるなど、情報共有体制の更なる充実に努める。

II いじめの防止等のための対策の内容に関する事項

1 いじめの防止等のために実施する事項

(1) いじめの防止等のための組織

本校におけるいじめ防止等の対策を計画的・組織的に行うため、取組を統括する組織として、「いじめ防止対策委員会」を置き、実質は「企画委員会」を実働的な組織として活用する。これらの組織は各取組に対し、評価・検証等を行い、恒常的に改善を図る。

○ いじめ防止対策委員会

基本的には、各学期に1回、年間合計3回のいじめ防止対策委員会を開催する。また、検討事案の発生時には、いじめ防止対策委員会から必要に応じた委員による緊急会議を実施する。

・ 構成メンバー

俵山小学校の全教職員

スクールカウンセラー（深川中学校に配属されている）

※ 必要に応じ、(PTA)育英会長・副会長や外部の専門家と連携・協働する体制を構築している。

・ 役割

- ◇ 学校基本方針に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・改善
- ◇ いじめの相談・通報の窓口
- ◇ いじめの疑いに係る情報があつた時の緊急会議の開催、情報の迅速な共有、関係のある児童生徒への事実関係の聴取、指導や支援の体制・対応方針の決定と保護者との連携

○ 児童情報交換会等

毎月の定例会議、事案発生時に緊急会議等

・ 構成 全教職員

・ 役割

- ◇ いじめの疑いに関する情報や児童の問題行動などに係る情報の収集、記録、共有
- ◇ いじめの疑いに係る情報があつた時の緊急会議の開催、情報の迅速な共有、関係のある児童への事実関係の聴取、関係児童への生徒指導 等
- ◇ 学校行事、校内研修等の企画・実施
- ◇ アンケート調査の実施・結果の分析・対策の検討

(2) 人権が尊重された学校づくり

いじめは、著しく人権を侵害する行為につながるおそれがあり、未然防止に努めることが大切である。互いの人格を尊重した態度や言動ができるよう、組織的・計画的に人権教育に取り組む。

(3) 豊かな心を育む教育の推進

- ・ 児童の一人ひとりの夢の実現に向けて、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」の核となる豊かな人間性を育むため、教育活動全体を通して、「みずぶさんのまなざしと感性」を基調とした心の教育を充実させる。また、『みずぶ読本』を活用し、みずぶさんの詩を使った学習を特別の教科道徳の年間計画の中に位置付け、思いやりの心を育む。
- ・ いじめの未然防止に向け、児童の規範意識を醸成するため、「きまり」「節度」「礼儀」を重視した小中学校一貫の取組を具体的に行う。
- ・ 社会貢献の在り方、自他の権利の尊重、人としての暮らし方やふるまい方等を学ぶため、地域清掃活動等のボランティア活動を充実する。

2 いじめの防止等のために実施する具体的な取組

本校におけるいじめ防止等の取組が体系的・計画的かつ具体的に行われるよう、各分掌の年間計画により、「いじめ防止対策委員会」を中核とする「未然防止」「早期発見」「早期対応」に向けた実効的な対策を行う。

未然防止（いじめの予防）

(1) 生徒指導・教育相談体制の充実・強化

- ・教職員の資質能力の向上に向け、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関等と連携しながら、積極的に事例研究や教育相談等のいじめ防止等に向けた校内教職員研修を開催する。
- ・すべての児童の能力を最大限に発揮できるよう、開発的な援助を行う教育相談体制の充実に一層努めるとともに、県教委作成の「Fit」（学校適応感を測る客観テスト）を必要に応じて活用するなどの取組を行う。また、校内で週1回実施している「ふりかえりアンケート」や学期に1回実施している「なかよしアンケート」等の取組を行い、その結果を踏まえて児童全員が学級担任や希望する教員と話をする機会を設けるなど、個別面談や教育相談を実施するなどして、児童理解に努める。
- ・小中学校の切れ目のない支援体制を構築するため、みすゞ学園内の連携を促進し、学校相互の情報共有に努めるとともに、一貫したいじめの防止等の対策に取り組む。

(2) 教育活動全体を通じた取組

- ・自ら考え、判断し、表現する学習活動を通して学び合い、学習内容を深めていくことができる、授業づくりに努める。
- ・すべての教育活動を通じて道徳教育を行い、児童の社会性や規範意識等の豊かな心を育み、一人ひとりの健全な成長が促されるよう、取組を進める。
- ・児童が、他者との協力の大切さを感じ、成し遂げる喜びを体験していくことができるよう、学級活動をはじめ、学校行事、児童会活動等において、内容・方法等を工夫改善する。また、いじめの防止・解決に向けた児童の主体的な取組を支援する。
- ・学校行事やボランティア活動を活用した体験活動等に重点的に取り組み、思いやりの心や社会性を育む。

(3) 家庭・地域との連携

- ・いじめを解決していくためには、保護者との緊密な連携が必要であるため、日頃から信頼関係づくりに努めるとともに、**長門市立俵山小学校いじめ防止基本方針を学校ホームページに掲載して公開し、周知に努める。**
- ・コミュニティ・スクールや地域協育ネットをいじめ問題対策の点からも推し進める。PTA（育英会）、学校運営協議会委員、青少年健全育成協議会等の関係団体や警察等の関係機関と協議する機会を設け、いじめの問題の解決に向けて地域ぐるみで取り組む。
- ・児童の校外生活について、日頃から地域の相談窓口や関係機関とも連携を図り、学校を中心とした地域の情報ネットワークの充実・強化に努める。

(4) 指導上の配慮が必要な児童への対応

- ・学校として特に配慮が必要な児童については、日常的に当該児童の特性を踏まえた適切な支援を行うとともに、保護者との連携、周囲の児童に対する必要な指導を組織的に行う。

早期発見（把握しにくいいじめの発見）

(1) 校内指導体制の確立

- ・「背景にいじめがあるのではないか」という意識を常にもちながら、保護者と緊密に連携し、定期的なアンケート、各学期の個人面談に取り組むとともに、担任・生徒指導主任を中心に全教職員できめ細かく児童を見守る体制をつくる。
- ・開かれた保健室・相談しやすい教育相談室づくりの取組、教育相談箱の設置等により、様々な手段で児童の不安や悩みをしっかりと受け止める。

(2) 家庭・地域との連携

- ・学校に寄せられる保護者や地域からの意見を課題把握に生かし、共に考え、児童のためにいじめを解決していく姿勢を明確に示す。

早期対応 (現に起こっているいじめへの対応)

(1) 早期対応のための本校の体制

- ・いじめを認知した場合は、担当教職員が抱え込むことなく、速やかに情報の共有と事実関係(時・場所・人・態様等)の調査を行い、客観的な事実を基に、保護者と緊密に連携し、いじめ対策委員会を中核として、全校体制で解決に向けて取り組む。

(2) いじめへの対応

- ・いじめられている児童を守り抜くとともに、いじている児童に対しては、懲戒も含め毅然とした姿勢で対応する。
- ・学校内にいじめは許されないという雰囲気づくりに努めるとともに、周りではやしたてる児童や、見て見ぬふりをする児童に対しても、いじめを制止するか、あるいは教職員に相談するよう指導する。
- ・いじめられている児童の心のケア、いじている児童の内省を促す支援等、必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部専門機関との連携を図る。
- ・インターネットや携帯電話を通じて行われるいじめに対しては、いじめを受けた児童からの申し出を精査する過程で、書き込み等を印刷又は写真撮影しておくなど、記録を取る。
- ・いじめられている児童の保護者との面談の時間を速やかに設定し、教職員が保護者と一緒に考え、児童のためにいじめを解決していく。
- ・いじている児童の保護者へは、「いじめは人間として、絶対に許されない」との認識の下、いじめの解消に向け取り組むことを伝えるとともに、児童のよりよい成長のために協力を依頼する。

(3) 地域・関係機関との連携

- ・日頃から開かれた学校づくりに努め、いじめの解決に当たっては、地域の積極的な協力を得る。
- ・犯罪行為として取り扱われるべきと認められる場合は、「やまぐち児童生徒サポートライン」(平成16年4月施行)による「学校から警察への連絡に関するガイドライン」(平成22年11月策定)に基づき、教育的配慮を行いながら、警察と連携した対応を図る。

3 重大事態への対応

(1) 重大事態とは

- いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。(児童生徒が自殺を企図した場合等)
 - いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。(年間30日を目安とするが、児童生徒が一定期間連続して欠席しているような場合は学校又は市教委の判断で重大事態と認識する。)(法第28条)
- ※児童生徒やその保護者からいじめられて重大事態に至ったという申し立てがあったときは、学校は重大事態が発生したものとして真摯に対応する。

(2) 重大事態の調査及び情報提供

いじめの根絶に向けた未然防止の取組が重要であるが、暴力行為や不登校がいじめによる重大事態に当たるか否かを、いじめ対策委員会において判断するとともに、速やかに市教委に報告し、指導助言を得ながら、前掲「早期対応」と同様、いじめられている児童の心身の安全の確保を最優先に、いじめの解決に向けた取組を行う。

また、外部専門家等とも連携しながら、いじめ対策委員会を母体に調査委員会を設置し、迅速・的確かつ組織的に対応する。なお、市教委が設置する専門家等の第三者からなる「いじめ問題調査委員会」による調査を行う場合もある。（重大問題発生時の調査等の流れについては長門市いじめ等防止対策基本方針「重大問題発生時の調査等の流れ」に準ずる。）

さらに、学校、教育委員会は、いじめを受けた児童・保護者に対して、調査により明らかになった事実関係等について、個人情報に十分配慮した上で、適切に提供する。

Ⅲ 家庭・地域・関係機関との連携

いじめの問題の解決に向けては、家庭・地域との緊密な連携・協働が重要であり、学校を家庭・地域に開かれたものにしていくため、学校運営協議会内に「いじめ対策部会」を設置するとともに、青少年健全育成協議会等の地域の関係団体にも協力を依頼し、学校基本方針の共通理解を図りながら、地域ぐるみで情報交換の促進、連携の強化等に努める。

また、児童・保護者の不安や悩み等を受け止めるとともに、地域とも協働を図るため、本校の相談窓口や関係機関等の相談窓口の周知を図り、必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門的な相談にも対応できる体制を整備する。

(1) 本校の相談窓口

長門市立俵山小学校	教育相談担当	0837-29-0833 (学校)
	相談メール送付先	tawarayama-e@nagatoedu.jp

(2) 関係機関等の相談窓口

○ 長門市教育委員会内 いじめ相談電話	22-3515
○ 長門市教育支援センター	22-3542
○ 子どもの人権110番 (山口地方法務局)	0120-007-110
○ 24時間子どもSOSダイヤル	0120-0-78310
○ サイバー犯罪対策室 (山口県警本部)	083-922-8983
○ ヤングテレホン・やまぐち (山口県警本部)	
0120-49-5150	
○ ふれあい総合テレホン (やまぐち総合教育支援センター)	083-987-1240
○ 山口県教育庁行政相談室 (教育庁教育政策課)	083-933-4531
○ ふれあいメール (やまぐち総合教育支援センター)	soudan@g.ysn21.jp